

精神科病院における結核対策の推進 ～院内感染対策のための人材育成と地域連携～

南多摩保健医療圏

実施年度	開始 平成29年度 終了 平成29年度
背景	<p>東京都結核予防推進プラン2012では予防対策の徹底として「適切な診断・検査の徹底」を挙げている。また、厚労省による結核に関する特定感染症予防指針（平成28年11月）では、結核の発生の予防、早期発見及びまん延の防止の観点から、結核以外の疾患で受診している高齢者やハイリスクグループの患者については、結核に感染している可能性があることを医療従事者に対して周知することが重要と指摘している。</p> <p>精神科病院は患者の特性から、症状の訴えが少なく結核患者の発見が遅れがちであり、また長期入院患者が多いことから集団感染のリスクが高くなっている。</p> <p>南多摩保健所管内には5か所の精神科病院があり、呼吸器内科専門医の配置はなく、レントゲン検査の結果から結核を疑うことや、院内で治療を行うことの難しさが、結核対策上の課題となっている。</p> <p>結核患者の早期発見、集団感染の予防、適切な治療と院内感染対策推進のため、医療従事者の人材育成のための技術支援や地域における連携が求められている。</p>
目 標	<p><計画全体の目標></p> <p>管内の精神科病院における結核の早期発見、集団感染予防、適切な治療のための地域関係者の技術の向上と地域連携の推進を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 管内5か所の精神科病院の患者・職員の結核健診実施状況及び体制、喀痰検査実施状況等、結核対策における現状を把握し、課題を明らかにする。 精神科医療機関が院内感染対策における取組を共有することにより、結核その他の院内感染対策に関する体制整備への理解を深める。
事業内容	<p><計画全体の概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 精神科病院調査（アンケート、聞き取り調査等） 関係者向け講演会 精神科病院の連携会議（2回） 精神科病院への講習会
評 価	<p>○管内5か所の精神科病院調査から分かったこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 結核対策については、結核発生の経験の有無で、各病院の結核に対する理解と対応に差があることが聞き取り調査を実施することで分かった。 5病院がそれぞれ体制や構造的な特徴があり、感染症対策についてもそれぞれの病院で異なる課題があること。 管内の5病院間での連携はなく、結核に限らず感染症対策について他病院との情報交換等を希望する病院が多いこと。 <p>○調査結果から以下①～③を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 結核対策全般について関係者向け講演会 精神科病院への個別の講習会 管内精神科病院感染症対策連携会議（2回） <p>○全体を通して、管内精神科病院の調査から現状やニーズについて把握することができ、結核の感染拡大予防に関する情報提供を行い、ネットワークの一步となる連携会議を開催できた。今後も精神科病院への感染症対策を支援していく必要性から、結核だけでなく感染症全般について、次年度も引き続き継続して、精神科病院間の情報共有等を目的に年2回程度の連携会議を開催することとする。</p>
問い合わせ先	<p>南多摩保健所 保健対策課 感染症対策担当</p> <p>電 話 042-371-7661</p> <p>ファクシミリ 042-375-6697</p> <p>E-mail S0000344@section.metro.tokyo.jp</p>

1 事業スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査		調査票作成		調査								
講演会								講演会		健康教育		
会議							連携会議			連携会議		まとめ

2 事業実績

(1) 精神科病院調査（アンケート、聞き取り調査等）

【目的】

管内の精神科病院における結核対策について調査を行い、状況把握と課題について整理し、今後の精神科病院における結核対策や人材育成における基礎資料とする。

【方法】

管内5か所の精神科病院に事前に調査票を送付し、回収後の調査票の内容について訪問し聞き取り調査を実施した。

聞き取り調査は保健所からは2名（保健師2名もしくは保健師と医師）訪問し、病院の感染症担当（調査票回答者）の看護師、医師、検査技師等に話を聞いた。

【調査実施時期】

アンケート調査及び聞き取り調査：平成29年7月～9月

【調査結果】

<調査票から主な調査結果>

感染制御チーム

病院	感染防止対策加算	感染制御チーム有無
A	未加算	有
B	未加算	無
C	加算2	有
D	加算2	有
E	未加算	有

患者入院時の対応

病院	平均入院期間	既往歴等の把握	入院時X-P実施	入院患者定期X-P実施	X-P頻度
A	1年9ヶ月	していない	している	している	半年
B	2年3ヶ月	している	している	している	1年
C	7年5ヶ月	している	している	している	1年(結核発生病棟は半年)
D	4年2ヶ月	していない	している	している	1年
E	1年3ヶ月	している	している	していない	—

有所見者への対応

病 院	有所見者への対応		
A	抗酸菌検査		
B	抗酸菌検査	他科受診	
C	XP検査	抗酸菌検査	身体症状の変化についてモニタリング
D	XP検査	抗酸菌検査	
E	XP検査	定期的ではないが PCR 法による喀痰検査もあわせて行う	

職員への結核対策

病 院	入職時 X-P	入職時 IGRA	入職時既往歴の把握	有所見者対応	
A	している	していない	していない	抗酸菌検査	
B	している	していない	していない	受診勧奨のみ	
C	している	していない	している	XP	受診勧奨をして経過観察状況を把握している
D	している	していない	している	抗酸菌検査	
E	している	していない	している	XP、抗酸菌検査	

職員への研修（結核）

病 院	院内研修の実施	院外研修への参加
A	していない	—
B	していない	していない
C	している	している
D	していない	している
E	していない	していない

【訪問調査と合わせて見えてきたこと】

- 5 病院すべてで入院時の患者へ XP が行われていたが、入院中の定期的な XP については 1 病院だけ実施していなかった。
- 患者の有所見への対応については、XP と喀痰検査が行われていたのが 3 病院だった。
- 職員への結核対策については、5 病院すべてで XP が行われており、IGRA は行われていなかった。また、既往歴の把握は 2 病院でしていなかった。
- 職員の有所見者への対応については、受診勧奨のみの病院が 1 か所あった。
- 職員への研修については、結核に関しては 1 病院を除いては行われていなかった。
- 調査票からはわからなかったが訪問し話を聞くことで、結核に対する理解についてバラツキが大きく、具体的な状況を知ることができ、5 病院がそれぞれ特徴にあることが分かった。
 - ・A 病院、B 病院は、結核の理解と対応について今回底上げしたい病院といえる。
 - ・C 病院は加算 2 をとっており、日医大多摩永山病院とも連携しており、感染症対策についてはある程度できていると思われる。また、結核についても 2～3 年前に結核患者が発生しており、対応も経験していることからその重要性を理解している。
 - ・D 病院は入院時に患者全員に原則、抗酸菌検査を実施している。一方で予算的に病院の持ち出しとなっていることについて問題としている。
 - ・E 病院は精神科の患者は認知症のみ。精神科の病室は全室個室ということで、大部屋のある

精神科病院とは問題が異なる状況である。

- 要望の中には「他の精神科病院での結核対策について知りたい（どのような研修内容か）」、「入院時に結核の既往の有無など、どの様に問診しているのか知りたい。」「結核について研修（院内）の内容、資料、講師・結核についての基礎知識」等、情報共有や学習意欲が感じられる。
- 4 病院で他の精神科病院との情報交換や他病院の見学を希望する病院があった。

(2) 関係者向け講演会

精神科病院への調査の結果から、バラツキはあるもののまず、結核の基礎的な知識について普及する必要があると考え、講演会を実施した。

また、入所型の高齢者施設での結核発生は集団感染のリスクがあり、高齢者施設での結核対策の推進も大きな課題であるため、精神科病院及び高齢者施設の職員を対象に、結核に関しての正しい知識の普及を行い、早期発見および集団感染の予防対策のための地域関係者のスキルアップを目指し実施する。



日時：平成 29 年 11 月 13 日（月）

13 時 30 分～15 時 30 分

場所：JTB フォレスト

対象：①管内の精神科病院（5 か所）で感染症対策にかかわる職員
②管内 3 市の高齢者施設（入所）に従事する職員

講師：結核予防会結核研究所 永田容子保健師

内容：・結核の病気についての基礎知識
・具体的な対応（日常の管理のポイント、患者発見時の対応）のポイント

参加者：23 名（精神科病院：6 名）

【アンケート結果から】

- ・講義内容がやや難しく、結核へかかわりの少ない職員には理解しにくい様子が見受けられた。

(3) 精神病院の連携会議（2 回開催）

【第 1 回南多摩保健所管内精神科病院感染症対策連携会議】

調査結果から他精神科病院との情報交換を希望する意見あり、講演会の後に 1 回目の連携会議を開催。

日 時：平成 29 年 11 月 13 日（月）

15 時 30 分～16 時 30 分

場 所：南多摩保健所

出席者：10 名（A 病院、B 病院、C 病院）

アドバイザー：結核予防会結核研究所

永田容子保健師

内 容：意見交換

各病院で現在行われている結核対応について、様々な報告や、他病院ではどうしているかといった質問などあり。



【今後について】

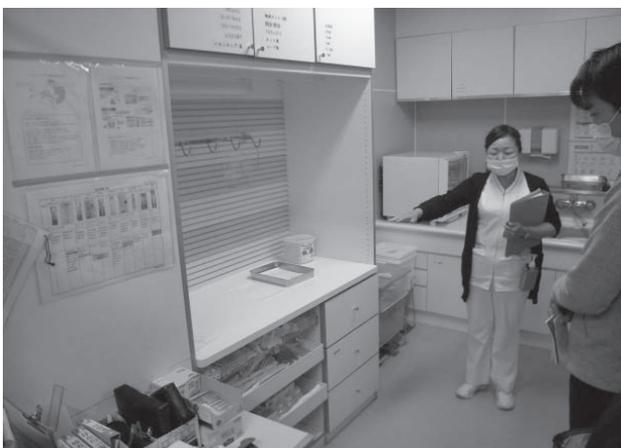
参加者から他病院の見学について希望や、感染症マニュアルについて、他病院のマニュアルを知りたいという意見もあり、情報交換など引き続き連携していくこととなる。

【第2回南多摩保健所管内精神科病院感染症対策連携会議】

C病院で感染対策の施設見学と感染症マニュアルについての情報交換を実施。

日時：平成30年2月21日（水） 14時～16時
場所：C病院
出席者：14名（B病院、C病院、D病院、E病院）
内容：施設見学：認知症病棟、急性期病棟、精神科病棟（女性閉鎖）、
隔離室、検査科、薬剤科を見学。
意見交換：各病院の感染症マニュアルを見ながら情報交換

● C病院内施設見学の様子



《病棟内（ナースステーション）見学の様子》



《薬剤課見学の様子》

●意見交換の様子



《施設見学について意見交換している様子》



《感染症マニュアルを見ながら情報交換している様子》

【今後について】

管内の別の精神科病院(できれば加算2)の施設見学の希望あり。来年度も連携会議開催の方向。

(4) 精神科病院への講習会

対象病院はこれまで結核患者への対応経験がなく、マニュアル等の準備もなかった。本年度、院内で結核疑いの患者が発生したが、その際に適切に対応できなかったというエピソードがあり、病院としても問題意識が芽生えているなかで、結核対策整備の足がかりとして、講義の要望があった。

対 象 : B 病院職員
参 加 : 25 名
場 所 : B 病院
実施日 : 平成 30 年 1 月 23 日 (金曜日)
内 容 : ・感染の 3 要素から感染症対策を考える (結核を中心に、インフルエンザ、感染性 胃腸炎についても解説)
・自分が感染しない/媒介者にならないために

3 まとめ

今回結核対策を通じて管内の精神科 5 病院と連携して、改めて精神科病院の感染症対策の難しさを実感した。

感染症対策の取り組み状況も様々な 5 病院だが、精神科同士の情報交換には共通して熱心なところがあり、今後もこの連携会議を継続していくことを希望している。情報交換しながら各病院の感染症対策のレベルアップを図っていけると良いと考え、来年度も引き続き連携会議を開催し、管内の精神科病院の感染症対策について、ネットワークを築いていけるように支援していきたい。